

# Abstract

AROMA RESEARCH No.56(Vol.14 No.4)

植物は揮発性有機化合物をどのように感じるのか?-除虫菊を例にとって一  
松田一彦

---

## <要旨>

キク科に属する除虫菊は天然殺虫剤ピレスリンを生合成する。ピレスリンは除虫菊の花部のみならず葉部でもつくられ、昆虫に対する防御物質として機能する。植物間コミュニケーションの観点から、除虫菊幼苗を用いて傷害誘導的に放出される揮発性有機化合物のピレスリン生合成に対する役割について研究した。物理的に傷害を与えると、除虫菊の幼苗からみどりの香りと(*E*)- $\beta$ -ファルネセンが放出される。それらは被害植物に隣接する位置で検出される濃度でブレンドして処理したときにだけ、無傷の除虫菊幼苗でのピレスリン生合成を活性化した。その結果と将来の研究課題を記す。

## <キーワード>

除虫菊、ピレスリン、生合成、植物間の会話、揮発性有機化合物